吉祥果

円頓寺だより

令和５年
６月号
【吉祥果 392 号】

最近ようやく花粉も黄砂も治まりました。街中も花見の季節とは違い、新緑がまばゆく、木陰で休憩しながら、散歩しても気持ちのよい季節になりました。

さて先日、あるお檀家さんの月参りに出かけた時のことです。家業が理容店。職業柄お客さんと一対一の場面が多いから、その場を和ませる必要からなのか、ご主人はとても温和で話好き。しかし理容店は常連さんが相手です。毎回同じというわけにもいかず、たくさんの話材が必要だからか、とても多趣味な方です。

その月参り日がお店の休業日で、ご主人さんもお参りにご同席され、一緒にお経を読み、ご両親のご回向をし、その後、お茶を飲みながら話をしていました。いつもの命日の日が診察日と重なって、日にちの変更をお願いしたとのことで、病気の話となりました。

ある常連さんが数年前に頸椎の手術を受けました。とても専門的な知識が必要な施術です。一歩間違えば体の自由が奪われる可能性もあります。躊躇していたところに出会ったのが、いわゆる名医といわれる先生。手術の経験も多く、信頼のおける先生だと思い、手術を受け、見事に回復し、普通の生活を送れるようになりました。

しばらくして散髪に来た別の常連さん。先のお客さんと同じような頸椎の病気で、「痛みを我慢してきたけれどもう限界だ。けれど手術して動けなくなるのも困る」との深刻な悩みを打ち明けられました。そこでご主人さんは、先の手術が成功したお客さんのことを思い出して話をしてあげました。するとぜひ紹介してほしいといわれ、まずはその回復したお客さんから、病院と先生の名前を聞いて、闘病中のお客さんに紹介して差し上げました。悩んでいたお客さんはそのお医者さんに会うべく病院を訪ね、手術を受けて、無事完治したそうです。退院後、そのお客さんにとても感謝されました。

そのご主人はそれ以降、自分が病気になると、病気について調べ、病院の施設や医師の専門などについても、トコトン調べるように努めました。現在の病状について、「今は投薬治療で治まっているけれど、もし手術になったらどんな手術をするんだろう。最新の手術や治療方法ってどんなのがあるのだろう。その病院で大丈夫か、他の病院はどうだろうと思って調べたんです。今の病院に

最新の医療器材が備わっているというので安心して通っています。誰か同じ病気になって相談されたら、その病院を紹介してあげられます」と話してくれました。自身の病状も気にかかるでしょうが、調べたことを人にも話して安心させてあげたいという気持ちが素晴らしいと思いました。

義父が病気になったとき、「町医者で名医といわれる医者は、どんな病気でもその専門家を知っていて、それを紹介できる医者」ということを聞きました。ご主人もそんな理容師さんです。

人は感謝されるとうれしいものです。それが自身の知り得たことや体験であれば、なおさらうれしいものです。だから話したくなります。喜びを分かち合えることが喜びなんです。

これと同じようなことが、法華経の随喜功徳品に説かれます。**「五十展転随喜の功徳」**といいます。

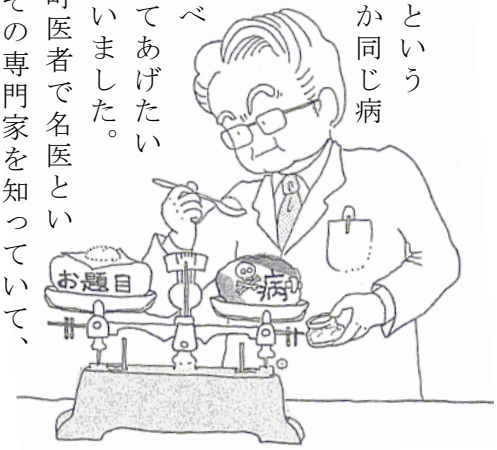
法華経を聞いて随喜した人が、次々に誰かに語り伝え、五十人目になっても、そこから得られる功徳は変わらない。

というのです。この随喜とは人の善行を見聞きして喜びを生じることです。ですから最初に聞いた人の喜びが、五十人までずっと続くほど大きな喜びで、なおかつ伝え聞いた人が、その喜びをさらに人に伝えたくなるほど大きなものでなければなりません。伝える側も、伝えられる側も喜びを感じ、それを語らずにはいられない。それが法華経なのです。

理容店のご主人も、お客さんも、語らずにはいられないほどの喜びを得ていたという点では同じです。これだって大きな利益でしょ。「でもなかなかみんなが共感できる、そんな大きな喜びには出会えないよ」と思うでしょう？でも案外、あなたは何でもないと思うことに、他人は感動してくれるものです。

大いに語ること、これが大事なんじゃないでしょうか？また自分に抱え込まず、誰かに尋ねることで解決することも案外多いと思います。「どうせわかってもらえない」と思うことなかれ。誰かが助けてくれるものです。周りを信じ、話をしてみましょう。思わぬ展開が待っているかも…、ですよ！

理容店の赤・白・青のサインポールは静動脈と包帯を表しているともいわれ、理容師が外科医をかねていた時代があったことの名残ともいわれます。



〈四条決別～ぼたもち供養の弁〉三十四

四条兄弟が大聖人のお顔を拝すると、お顔の色も変わり、衣も破れ、縄で拘束されておいでした。「どうして大聖人が迫害されるのか。法華経の行者を守る諸天善神はこの世にはおられないのか。真実を確認するためこの場で切腹し、霊山浄土に詣って、釈迦牟尼世尊にお目にかかり、『あなたがお説きになった法華経には、法華経の行者を守る諸天善神・仏菩薩が説かれるが、どうして大聖人への御守護がないのか』と言上いたそう」と捨身決定、もろはだ脱いで

「大聖人様、ただ今参上いたしました」

とお声をかけると、馬上の大聖人様、ご覧になればお題目の書かれた死装束の経帷子を着た四条兄弟。

「会いたかったぞ、兄弟四人の方々。これほどの喜びはござらん。この娑婆世界に生を受ければ必ず死の時は来る。妻子財宝のために命を捨てるものは多いが、国のため、法華経のために命を捨てるものは一人もない。今宵日蓮、この頚を法華経に捧げる。この喜びに勝る喜びなどない。思えば日蓮生まれて、父母への孝養も足らず、国に報ずる力もない。せめて一命を法華経に捧げることによって、父母の菩提を弔い、国にご恩を報ずることもかなうであろう。四条殿兄弟は日蓮と同じ行者。龍の口まできてもらったのは、日蓮が頚打たれたならば、最期を看取って末代の弟子檀信徒に語り伝えてほしい」

兄弟四人は、泣いて馬の口に取りすがりましたが振り切られ、大聖人は龍の口の刑場に向かいました。その道中、津村というところにさしかかりますと、一人の老婆が、

「お役人様、お願いがございます。それなる大聖人様にお別れをいたしたく存じます」

警護の役人は声を荒げて

「お上にご用の日蓮じゃ、邪魔をするな」

と制するのを、馬上の大聖人は

「お役人殿、見れば老人のこと。非道なことをなさいますな。しばしこの馬を止めてくだされ。して、それなる老婆よ、日蓮にいかなるご用か？」

「私は津村に暮らす老婆、用事があって鎌倉にまいりましたとき、辻説法を聴聞いたしました。それより以降は大聖人様のご教化を楽しみに鎌倉へとでかけておりました。承れば今宵龍の口にてご法難とのこと。今生のお暇ごいに牡丹餅をと用意いたしましたが、小豆の煮えるのが間に合わず、ありあわせの塩胡麻を振りかけてまいりました。心ばかりのご供養、受けてくださいませ」

と差し出した鍋蓋の上の塩牡丹餅。徳を備えた大聖人、その心を思いはかって、目にいっぱいの涙を貯え

「ご老婆、不思議なるご供養を…」

と供養の塩牡丹餅をお受けになりました。【つづく】

【ご予定ください】

★令和５年7月１日　お盆施餓鬼法要

【法要形式はコロナ前の状態に戻します。
ご家族そろってお参りください】

・午前 10 時～　　受付開始
・午前 10 時半　　法要開始

初盆供養申込者、４尺塔婆、３尺塔婆の順に、お塔婆の読上げ供養を行います。
（４尺塔婆は、墓参日には墓地へ持っていきます）
焼香後、塔婆の受け取りが可能です。

◎当日参拝にならなかった方のお塔婆について

・円頓寺からお盆の棚経に行くお宅には、棚経の時のお渡しも可能です。
※ただし、ご近所の方は、棚経へは自転車やバイクで伺っていますので、お寺まで受取りに来てくださいますようお願いします。
※法要日以降のお塔婆の受取は、事前に電話連絡をください。

※お墓参り（平和公園当山墓地）

７月 23 日(日)　朝８時半～10 時半
★ 納骨希望の方は、早急にお知らせください。

《６月の当山　行事予定》

※鬼子母神様　ご祭礼

６月 18 日(日)
午後１時半より
読経　法楽加持

〒451-0042
名古屋市西区那古野１－１１－７
長久山　円頓寺
Tel　０５２（５５１）３７６８
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://endonji.web.fc2.com/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　shiota.houyuu@gmail.com

円頓寺　検索

【E-mail はﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを経由しても送れます】